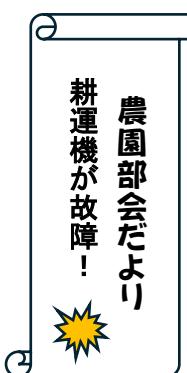


●昆虫好きの2人が来所 10月13日(日) 14:30頃

吉村開君と中沢洋斗君が大きな補虫網を持って事務所に来てくれました。夏休みの活動を学校で報告すると大反響があつてクラスの仲間から高い評価を得られたそうです。撮影された映像を見せていただきました。そして観察ノートに書き込んだ記録も広げてくれました。そこでカメラの映像を印刷希望されたので、電源の入れ方から伝えてから印刷まで一通りの手ほどきをすると、カメラのUSBを取り出してからの手順は一度の説明でのみ込んで印刷のところまで理解し、1時間ほどで編集や説明の打ち込みまでできました。今どきの子どもたちの呑み込みの速さには大変驚きました。この調子だと12月14日のイタセンパラの復元を目指す会での活動発表はできるだろうと確信しました。



●10月12日(土)9時30分から里山農園作業

朝晩は長袖があると嬉しいくらいまで気温が下がりましたが、日中はまだ暑い中での作業でした。収穫作業が終った後や野菜を植え付ける前などに大活躍してくれていた、耕運機(トラクター)が故障するという、農園部会にとっては非常に大打撃な事態が発生しました。耕運機も人間と同じく定期的にメンテナンスが必要ですが、故障も病気も予防していたとしても急に発生するので悩ましいものです。早く元気になってもらいたいと願うばかりです。

皆さんの力が必要です。ご都合があえば是非とも一緒に里山保全をしましょう。

きっと、気持ちの良い汗をながすことができますよ！



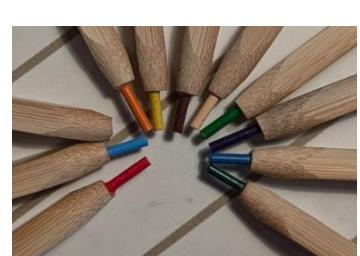
人力での土起こし

●常務理事宅に里山の会へ多額の寄付金を届けていただきました。

これまでにも幾度かのご寄付を皆さんから頂戴いたしましたが、想像を超えるご寄付に驚いています。これまでの活動をご理解いただいての事と存じますが有難いことと思います。26日の事務局会議に報告いたしましたところ、出席者全員が感謝の気持ちでいっぱいになりました。大変ありがとうございました。大切に使わせていただきます。

●竹サインペン、リクエストに応えて色鮮やかに。

竹サインペンの協力要請をお願いに上がりますと最初は黒色一色でしたが「赤色はないですか」とリクエストを多くの皆さんからいただきました。色鉛筆までは考えていませんでした



が、製作してみると何とか描けるではありませんか。もちろん芯は黒に比べて柔らかく、少し弱いようですが何とか使用に耐えてくれるようです。また焼きゴテでのサイン付けも試みて出来上がりしました。集中する時間が長くかかりますが手書きで根気よくやれば出来ることが分かりました。まだまだ経験不足ですが、取り組んでみたいものです。

●同志社大学サッカーチームの関俊太郎様から連絡をいただきました。

2024年度年末に昨年同様のボランティア活動に12月7日8日の予定で里山の会へ出かける予定をしていますとの連絡をいただきました。事務局一同大歓迎との応答でした。2023年度には里山

の会が行っている木津川の希少植物の保全活動の 35ヶ所 16000m²の刈り取った草の集草作業のお手伝いをお願いしました。当初 3日とのことでしたが実行してみると、延べ 45人 4日間の作業になってしましました。今年は 2日間で 35ヶ所の集草箇所の集草作業をやり擧げるには 1日 25人以上の人手が必要になりますし、2日間だと延べ 50人程度となります。そして 35ヶ所の半分ずつとするとボランティアさんを現場に運搬は一作業があつてかなり苦労しなければなりません。こうした難題をどのようにクリアすべきかと思います。いずれにしても全国で一級河川が 107本ありますが絶滅危惧植物の保存作業を 24kmにわたって実施しているところは木津川だけではないかと思います。私たち里山の会のメンバーの多くが高齢者となってこうした若者のボランティアの行動が大変大きな力で勇気づけられています。学生さんたちもご苦労さまですが十分ご理解をいただきまして、よろしくお願ひいたします。

里山の会が確認している絶滅危惧植物



●9月24日に同志社大学の学生さんが初めてボランティアに参加した時の感想を紹介します。

はじボラ@里山農園振り返りシートまとめ

Q 1. ボランティア活動を終えてみて、感想をお書きください。

私が行ったのは主に階段の補修作業でした。一つの仕事に複数人が関わっているため、どうしても手持無沙汰になってしまう場面が多々ありました。そのとき、今自分が何をするべきなのかを考えることの大変さと重要さについてよくわかりました。

印象に残ったことは私たちが知らないところで、実際に動いている方たちがいるのだと気づいたことです。自宅や学校など、ある程度整備されているところで生活を送っていると実際に、自然を切りひらき、畑や階段整備するという作業をする人々がいることを忘れてしまう。そのことを知り、体験できたことが印象に残ったことです。

今まで気に留めなかったことを改めて気づかせてくれたいいきっかけとなり、インフラ業といった、陰で支えてくれる人への感謝を思い出させてくれました。また、自然に対する皆様の眼差しが印象に深く刻まれました。

普段目にすることのない、自然環境を保護する活動に参加することで環境保護への意識が高まつた。

Q 2. 事前に立てた目標は達成できましたか？その理由もお書きください。

当日の天気がよく晴れており、風もほどよく吹いていたので自然の中に身を置く心地良さを感じることができました。子どもたちにもっとゆったりと遊んで過ごせる時間を作りたいという団体の方の気持ちを知ることができたことも良かったです。

事前に立てた「下宿している京田辺を深く知ること」は、達成できた。そして、普段暮らしている大学周りや発展している場所だけでなく、これから造られていく自然を直に体験できたため。

一緒に参加した人や、地域の方々とお話してきて「交流の場を広げる」といった目標は達成できたと思います。

引率スタッフとしてあまり周りを見ていなかつたため、あまり達成できなかつた。

Q 3. ボランティアに対するイメージの変化や気づきなどはありましたか？

ボランティアというとどうしてもこちらが100%助けてあげなくてはいけないものばかり思っていましたが、ボランティアとはただの立場に過ぎないのだなと気づきました。一つの人との関わり方としてボランティアがあるとわかりました。

もともとボランティアは無償で働き、帰るだけというどこか無機質なものだと思っていた。しかし、実際にはボランティア先の方々や一緒に頑張った仲間と関係を築き、この機会だけで終わらない永続的なものだと思い気づいた。

実際にい、よりやりがいのあるものと感じました。誰かの助けになることが自分の心を満たすものだと知ることができました。

今まで参加したボランティアとは全く異なっていて、私の想像以上に多くのボランティアがあることに気づいた。

Q 4. 今後取り組んでみたいことはありますか？（活動先で、日常で）

物事を広く見る視野は今後意識して持ち続けていきたいと思っています。今後、ボランティアをする機会があれば、現地の人が何を大切にしているのかをしっかりと感じていきたいと思います。

今回植え付けを行った大根を11月頃に収穫に行きたいです。

より多くの活動に加わり、より多くの人を助けられるようにしたいです。そして、日常でも困った人に手を差し伸べるようになりたいと思いました。

今回のボランティアについて詳しく知れたので、別のボランティアに参加する際にもその知識を活かしたい。

竹蛇籠製作講習会 参加者募集

最初の取組として 2015 年 10 月に木津川 15.2 km に両岸に竹蛇籠 6 基を設置しました。この取り組みから竹蛇籠の素材は 7m の長さで太さ 7 cm の真竹の 4 分割された真竹で、幅 45mm の素材が必要と学びました。そこで竹割機が必須と分かり高橋式を製作して竹割の重労働から解放された。そして素材を曲げるための「ひび入れ」の転圧機を用意して「節を取る作業」を実行して、素材を確保できたのです。しかし幅精製機は完全な形で作り上げられていないのが現状で改善の余地を残しています。

いまだ機械化が出来ず手作業にたよっています。

これまでの実績は、6 基（1 基 3 本の竹蛇籠）の竹蛇籠の他に玉水浜に 4 群 12 基の中聖牛を設置してきました。そして相楽郡精華町にも 1 群 4 基の中聖牛を設置し、2023 年 11 月には玉水浜に将棋頭型の竹蛇籠を設置。2022 年には京都大学宇治川ラボラトリに中聖牛のモデルを完成、設置いたしました。今後は竹蛇籠製作講習会の実施を行い製作技術の継承普及をはかることが使命と考えています。国交省淀川河川事務所はこの取り組みに対して理解が深まり竹蛇籠の製作設置に可能な限り協力するとの表明を得ていますので、下記の要領で製作設置に取り組みます。

興味と関心をお持ちの方々のご参加をお待ちしております。

製作講習会 第一日 11 月 17 日（日）9:30~12:30 竹蛇籠の製作 3 本（6m 物）

第二日 11 月 24 日（日）9:30~12:30 竹蛇籠の製作 3 本（6m 物）

講習会場 木津川右岸玉水橋東詰め広場 JR 奈良線 玉水駅下車 西方へ徒歩 10 分

参加申し込み fddbw257@yahoo.co.jp 氏名住所電話参加方法 参加費無料 参加制限なし
当日飛び込み参加歓迎

主催 NPO やましろ里山の会

京都府植物園での講習風景

